		観点		
学年	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
3年	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫や植物を大切に育て、一人一人が実際に自然にふれる機会を多くし、観察したり、考えさせたりすることで、意欲を高めるように工夫する。 教育テレビの理科番組や学習探検ナビソフトを有効活用し、実際の観察や体験が不足するものを補う。 身近な生活場面から、課題を設定することで、関心、意欲を深めて学習に入るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 比較をして差異点や共通点について考察し、自分の考えをまとめて表現できるようにする。 ICT機器の扱い方の技能を高め、自分の考えをまとめて表現できるように図っていく。 実験や観察をする際は、今までの体験を基にして予想することや、実験、観察の結果を言葉や表などでまとめることを指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の際には、一人一人が実験器具を手にとりて行わせる。 正しい手順で正確な実験を行うために、実験器具の取り扱いや結果の記録のまとめ方を繰り返し指導し、定着を図る。 温度計の読み方を定着させるために、観察カードの記録の際などにも個人が温度計を読むようにする。 観察のポイントをおさえ、細かく観察ができるよう、ワークシートを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の終わりの時間には、自分の生活と関連付ける学習を計画して自然事象の知識を深めることができるようにする。 単元を振り返る時間をもち、ワークテストや小テストを繰り返し行うことで、知識として定着するようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を明確にした上で実験や観察を行い、問題解決への意欲を高める。 身近な生活場面から、課題を設定することで、関心、意欲を深めて学習に入るようにする。 ICT機器を活用して、関心を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「課題・予想・実験・結果・まとめ」という学習の流れを通し、ノートにわかりやすくまとめる習慣を身に付けさせる。 関係付けて調べる活動を通して、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現できるようにする。 ICT機器の扱い方の技能を高め、自分の考えをまとめて表現できるように図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい手順で正確な実験を行うために、実験器具の取り扱いや結果の記録のまとめ方を繰り返し指導し、定着を図る。また、必要に応じてワークシートを活用し、よりよいまとめ方ができるようにする。 実験器具をそろえたり、少人数のグループ編成にしたりして、一人一人が主体的に実験できるようにする。 観点を明確にし、正確に観察ができるようにする。 ICT機器を効果的に活用し考察に生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を振り返る時間には、自分の生活と関連付けて考えたり、発表や意見交換をしたりする場を設け、学習したことが知識として定着するようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 導入を工夫し、自然事象に対する問題意識を高める。 ねらいに沿った実験や観察の機会を増やし、自然事象について問題解決することの楽しさを味わわせる。 学習内容と日常生活を結びつけ、理科で学んだことを生かす態度を育てる。 ICT機器を活用して、資料を拡大表示したり、ビデオ映像を見せたりして関心・意欲を高める。 提示した事象から、疑問や確かめたいことを実験につなげるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を明確にし、問題解決的な学習を行うことで、科学的な思考を育てる。 「予想→実験→結果→考察→まとめ」といった、授業の展開の徹底を図り、ノートにわかりやすくまとめる習慣を身に付けさせ見通しをもって取り組ませることで、思考・表現力を高めさせる。 条件を変えたり制限したりしながら調べる活動を通して、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し表現できるようにする。 ICT機器を活用し実験→結果→考察→まとめの話し合いに生かすようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の名称や、正しい使い方について理解できるように、拡大写真や絵図を掲示したり、使い方を例示したりする。 一人一人実際に操作することで、実感を伴った技能の習得ができるようにする。 ペアやグループ学習を取り入れ、相互に学び合う学習から、観察や実験の手順や方法を教え合ったり、結果について考察し合ったりさせる。 予想に立ち返って実験と、結果を振り返るようにして、実験の目的をしっかりと押さえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用したり、小テストを行ったりしながら、知識・理解の定着状況を把握する。 ICT機器を活用し、自然事象についてより視覚的に分かりやすくし、より深く理解することができるようにする。 「予想→実験→結果→考察」の授業展開の中で、結果にちがいが起こることを理解させるため、まとめを丁寧に行い、学習の定着を図っていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入を工夫し、自然事象に対する問題意識を高める。 ねらいに沿った実験や観察の機会を増やすことにより、自然事象について問題解決することの楽しさを伝える。 ICT機器を活用して、資料を表示したり、ビデオ映像を見せたりして関心・意欲を高める。 考察では、新たな疑問や確かめてみたいことを加えて書かせ、次の実験に生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「予想→実験→結果→考察→まとめ」の授業展開を基に、学習の見通しをもって取り組むことで問題解決の力を育成する。 考察場面では、友達の考えや意見にふれる時間を設け、思考・表現が深まるようにする。 多面的に調べる活動を通して、より妥当な考えをつくりだし、表現することができるように、個人やグループで話し合い、考える時間を多く設ける。 既習事項を生かし、ICT機器を活用し、学習問題に対する予想を立てたり、生活の中でどのように役立っているのかを考えたりして、発表する場を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の際は、一人一人の役割を明確にし、どの子も実験する機会を多く設け、器具の使い方や用途について確実に理解させる。 安全面で注意が必要な場合や手順が複雑な実験の際は、手順を全体で確認したあとに実験させ、安全に実験が行えるようにする。 何を確かめるための実験なのかをしっかりと押さえる。 ノートの左側は見出しの欄にするなど、学習内容が分かるようノート指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用したり、小テストを行ったりしながら、理科的用語の知識・理解の定着を図る。 学習の振り返りを丁寧に行い、自然事象や実験結果などの理解の定着を図る。